



Japan Society of Bioscience,
Biotechnology, and Agrochemistry

2013.6

会告

カレンダー・・・K-1
お知らせ・・・K-3
支部だより・・・K-6

CALENDAR カレンダー

会
告

期日	講演・会合等名称（会場）、《共催等》、太字＝本会関連
2013年（平成25年）	
6/1（土）	第23回万有福岡シンポジウム（九大）《協賛》
6/1～2（土～日）	第15回マリンバイオテクノロジー学会年会（沖縄）《協賛》
6/2～5（日～水）	第2回Functional Metagenomics Workshop（南アフリカ）
6/5（水）	千里ライフサイエンス技術講習会（阪大）
6/5～6（水～木）	第103回有機合成シンポジウム（慶應大）《共催》
6/6（木）	日本学術会議公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム」（福島）《後援》
6/7（金）	日本ゾルーゲル学会第10回セミナー「機能性ナノスケール材料の最先端」（阪府大）《協賛》
6/7（金）	新規素材探索研究会第12回セミナー（横浜）《共催》
6/7（金）	公益財団法人発酵研究所第7回助成研究報告会（豊中）
6/7～8（金～土）	第40回生体分子科学討論会（阪大）《共催》
6/8（土）	日本農芸化学会中四国支部第36回例会（島根大）
6/11（火）	創造機能化学講演会（東京）《共催》
6/13～14（木～金）	第19回地下水・土壤汚染とその防止対策に関する研究集会（京大）《後援》
6/13～14（木～金）	（財）日本ビフィズス菌センター第17回腸内細菌学会（北里大）
6/14（金）	第14回酵素応用シンポジウム（愛知）
6/14（金）	国立環境研究所公開シンポジウム2013（東京）
6/15（土）	極限環境生物学会第14回シンポジウム（東洋大）
6/15～16（土～日）	文部科学省科研費補助金新学術領域研究「生合成マシナリー：生物活性物質構造多様性創出システムの解明と制御」第5回公開シンポジウム（北大）《後援》
6/19～20（水～木）	平成25年度前期（春季）有機合成化学講習会（東京）《共催》
6/19～21（水～金）	日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会（東京医歯大）《後援》
6/21（金）	第63回日本電気泳動学会シンポジウム「電気泳動と質量分析による微生物の分析」
6/21（金）	国立環境研究所公開シンポジウム2013（京都）
6/22（土）	第58回低温生物工学会セミナー（関西大）《協賛》
6/25～26（火～水）	2013年産業技術総合研究所中部センター研究発表会（名古屋）《協賛》
6/28（金）	構造活性フォーラム2013（理研）《協賛》
6/29（土）	第24回万有仙台シンポジウム（仙台）《協賛》
7/3～5（水～金）	第48回天然物化学談話会（大津）《協賛》
7/4（木）	千里ライフサイエンスセミナー「エピジェネティクス制御からの生命活動の理解とその展望」（大阪）
7/6（土）	第50回化学関連支部合同九州大会（北九州）
7/6（土）	中部支部 第167回例会「昆虫がつくるおもしろい有機化合物—その発見と展望・夢を語る—」（三重大）
7/6（土）	2013年度第1回日本農芸化学会関東支部例会受賞講演・シンポジウム「微生物の機能解析と応用への展開」（東農大）
7/6（土）	日本農芸化学会関西支部例会第480回講演会・ミニシンポジウム（阪府大）
7/6（土）	第25回万有札幌シンポジウム（北大）《協賛》
7/12（金）	平成25年度生物工学フォーラム「合成生物学は生物工学に資する技術か？」（東京農工大）《協賛》
7/13（土）	平成25年度日本農芸化学会東北支部シンポジウム（東北大）
7/18～19（木～金）	セルロース学会第20回年次大会（京大）《協賛》

期日	講演・会合等名称(会場)、《共催等》、太字=本会関連
7/29~8/1 (月~木)	International Conference on Structural Genomics 2013—Structural Life Science—(ICSG 2013-SLS、第7回国際構造ゲノム会議—構造生命科学) (札幌)《共催》
8/1~2 (木~金)	日本グルーゲル学会第11回討論会 (広島大)《協賛》
8/1~2 (木~金)	千里ライフサイエンス振興財団平成25年度技術講習会 (阪大)
8/5~7 (月~水)	第32回日本糖質学会年会 (大阪)《共催》
8/19~21 (月~水)	第3回高校生バイオサミットin鶴岡 (鶴岡)《後援》
8/23 (金)	H25年度第2回油化学セミナー「サビにくい体にする抗酸化食品の健康調節機能」(弘前大)《協賛》
8/31 (土)	向山アルドール反応40周年記念シンポジウム (東京)《後援》
9/10~12 (火~木)	第61回日本質量分析総合討論会 (つくば)《共催》
9/12~13 (木~金)	第30回シクロデキストリンシンポジウム (熊本)《共催》
9/14~16 (土~月)	第22回日本バイオイメージング学会学術集会 (東大)《協賛》
9/14~18 (土~水)	第12回ヒトプロテオーム機構国際会議 (HUPO2013) (横浜)《後援》
9/18~20 (水~金)	第55回天然有機化合物討論会 (同志社大)《共催》
9/22~26 (日~木)	Enzyme Engineering XXII (富山)《共催》
9/23~27 (月~金)	第15回全反射蛍光X線分析法 (TXRF2013) および第49回X線分析討論会合同会議 (阪市大)《協賛》
9/24~27 (火~金)	13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and Other Bioactive Compounds (ICCA-13) (山梨)《共催》
9/28 (土)	ノーベル賞受賞者講演会—理系学生 (学部・大学院・博士研究員) 対象: 根岸英一博士 (東京)《協賛》
10/3~4 (木~金)	第36回フッ素化学討論会 (つくば)《共催》
10/4~8 (金~火)	第10回アジア・太平洋キチン・キトサン国際シンポジウム並びに第27回キチン・キトサンシンポジウム (米子)《協賛》
10/5~7 (土~月)	第57回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (埼玉大)《共催》
10/14~18 (月~金)	第18回国際窒素固定会議 (18th International Congress on Nitrogen Fixation) (宮崎)《共催》
10/17~19 (木~土)	第43回複素環化学討論会 (岐阜)《共催》
10/31~11/2 (木~土)	第49回熱測定討論会 (千葉工大)《共催》
11/6~8 (水~金)	第4回アジア太平洋国際ペプチドシンポジウム、第50回ペプチド討論会 (大阪)《共催》
11/7~8 (木~金)	第36回情報化学討論会 (筑波大)《共催》
11/7~8 (木~金)	第41回構造活性相関シンポジウム (関西学院大)《協賛》
11/8 (金)	第54回機器分析講習会 (第3コース: 食品を中心とした異物分析) (東京)《協賛》
11/14~16 (木~土)	第54回高圧討論会 (新潟)《協賛》
11/15~16 (金~土)	第46回酸化反応討論会 (筑波大)《共催》
11/16~17 (土~日)	第19回ヒ素シンポジウム (九大)《後援》
11/16~17 (土~日)	2013年日本化学会中国四国支部大会 (広島大)

農芸化学会 からの お知らせ

2014年度（平成26年度）大会のお知らせ

日本農芸化学会2014年度（平成26年度）大会を下記の予定で開催いたします。

会期：2014年（平成26年）3月27日（木）～30日（日）

会場：

【授賞式／受賞講演等】明治大学リバティータワー（〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1, http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html）

【懇親会】京王プラザホテル（〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1, <http://www.keioplaza.co.jp/>）

【一般講演・展示会・シンポジウム・ラ

ンチョンセミナー・ジュニア農芸化学会等】明治大学生田キャンパス（〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1, http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/ikuta/campus.html）

授賞式、受賞講演等、懇親会：2014年3月27日（木）

一般講演・展示会・シンポジウム・ランチョンセミナー・ジュニア農芸化学会等：2014年3月28日（金）～30日（日）

一般講演申込（要旨投稿）WEB受付期間：2013年11月1日（金）～2013年12月6日（金）正午（予定）

大会参加申込WEB受付期間：2013年12月6日（金）午後～2014年1月17日（金）（但事前料金）（予定）

月6日（金）午後～2014年1月17日（金）（但事前料金）（予定）

当日参加申込WEB受付期間：2014年3月3日（月）～2014年3月30日（日）（但当料金）（予定）

プログラム集（冊子体発行）：2014年2月25日（火）

講演要旨集（WEB上の公開）：2014年3月5日（水）

大会実行委員会：[委員長] 正木春彦（東京大学大学院農学生命科学研究所）[副委員長] 星野貴行、中島春紫〔総務〕渡邊秀典

未来社会を支える“農芸化学”の新技術と学術融合 日本農芸化学会2014年度大会シンポジウム課題の募集

日本農芸化学会2014年度大会は2014年（平成26年）3月27日（木）～30日（日）の4日間、明治大学生田キャンパス（川崎市多摩区）を主会場として開催されます。大会最終日3月30日（日）に、1課題約3時間の枠でシンポジウムを開催予定です。つきましては、シンポジウム課題を広く会員の皆様に公募し、約25課題を採択します。課題のご提案にあたりまして、以下の大会シンポジウム指針を参考にしてください。

農芸化学は、これから迎える新しい社会を生命・食糧・環境の分野から支えるべく広い研究分野を結集し、生命の理解と天然物・医農薬・食品の応用を目指しています。本大会では、少子高齢化が進行する中での明るい未来へ向けた胎動を感じさせる内容をもつシンポジウムを募集いたします。そこでたとえば、

- ◎伝統的な学術分野と時代に即した学術領域の融合
- ・最先端分析機器・手法による農芸化学研究の新展開（次世代シーケンサー、オミクス、LC/MS、NMRなど）
 - ・微生物醸酵生産の新展開（先端技術を用いた新しい醸酵生産）
 - ・創医薬と創農薬（天然物化学や植物科学を活かしたアプローチ）
 - ・食品学と栄養学におけるニューテクノロジーの活用と医学・工学・薬学との連携

◎世界的にユニークな農芸化学研究

- ・基礎科学から産業化への死の谷の克服
- ・世界をリードする農芸化学における微生物研究

◎その他

- ・東日本大震災復興における農芸化学の役割
- などを中心として、農芸化学の広範な分野および領域横断的な課題の応募を期待します。また、若手会員からの積極的な応募も期待します。

提案いただいたシンポジウム課題は、シンポジウム委員会で決定の後、8月末頃までに課題応募者宛てに採否を連絡いたします。

その他の不明な点は、シンポジウム担当までお問合せください。

【シンポジウム課題公募要領】

応募期限：2013年7月31日（水）

公募申請に必要な記載事項：1) 課題（仮題でも可）、2) 世話人の氏名・所属・年齢（2～3名）、3) 企画趣旨と概要（400字程度）、4) 講演者案（氏名・所属・会員と非会員区分）、5) 海外講演者の有無、6) 予想される聴衆人数、7) 希望会場規模〔99人収容の会場でも可〕または〔100人収容以上の会場を希望〕、8) その他の参考となる事項、9) 世話人代表者（国内正会員）の氏名と連絡先（郵便番号、所在地、所属、電話番号、ファックス番号、E-mailアドレ

ス)

応募先：代表者宛にお送りください。

※メールの件名を、「農芸化学会シンポジウム応募」として
送信ください。折り返し受領通知をお送りします。受領
通知がない場合は再度送付ください。

問合せ先：[シンポジウム担当] 代表：浅見忠男（東京大学
大学院農学生命科学研究科内）E-mail: asami@mail.ecc.u-

tokyo.ac.jp；副代表：作田庄平（東京大学大学院農学生命
科学研究科），加藤久典（東京大学大学総括プロジェクト），
高橋伸一郎（東京大学大学院農学生命科学研究科），葛山智
久（東京大学生物生産工学センター），尾仲宏康（東京大学
大学院農学生命科学研究科）

参考URL: <http://www.jsbba.or.jp/event/annual/>

2013年度大会講演要旨集オープンアクセスのご案内

2013年3月24～27日に仙台において開催されました2013
年度大会の大会講演要旨集（2013年3月5日公開）は、学会
ウェブサイト上で**2013年5月15日よりオープンアクセス**となりま
した（URL:http://www.jsbba.or.jp/MeetingofJSBBA/meeting_of_jsbba.html）。

パスワードを入力することなく、どなたでもご利用いた
だけます。また、年次大会発表データベースに2013年度大
会発表データをマージしましたので、プログラム検索につ
いてもどうぞご活用ください（http://jsbba.bioweb.ne.jp/jsbba_db/index.html）。

英文誌編集委員会からの重要なお知らせ

BBBの投稿規程が6月1日より変わります。

主な変更点は以下の3点です。

1. **これまで掲載前に行ってきました英文校閲サービスを中止します。（※1）**
2. 論文種別のうちCommunicationを廃止します。（※2）
3. 掲載される論文は全て早期公開を行います。

英文校閲サービスの中止に伴い、6月1日以降に投稿された論文のうち、英語が基準に満たないと編集委員が判断したもの
は、掲載の採否の判断をせずに直ちに返送いたします。投稿の際にはご注意ください。

（※1）変更の移行期間として、2013年6月1日以降に投稿された論文であっても、2013年11月末日までに掲載可とな
った論文に関しては、従来どおり英文校閲サービスを実施します。

（※2）2013年5月末日をもってCommunicationの受付を終了します（受付終了後の掲載状況により、掲載廃止時期は未定
となります）。

問合せ先：公益社団法人日本農芸化学会編集係

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル2階 Tel. 03-3815-1907, E-mail: henshu@jsbba.or.jp

本会推薦による賞・助成金情報

適任者がおられましたら奮ってご応募ください。本会授賞選考委員会で選考し、推
薦いたします。

賞・助成の詳細につきましては、当募集
団体ホームページをご覧ください。

また、本会ホームページの賞・助成情
報（<http://www.jsbba.or.jp/info/grant/>）
もご覧ください。

【賞】

○第30回持田記念学術賞（6/28締切）

対象：(1) バイオ技術を基盤とする先端
医療に関する研究 (2) バイオ技術を基盤
とするゲノム機能／病態解析に関する研
究 (3) 免疫／アレルギー／炎症の治療な
らびに制御に関する研究 (4) 循環器／血
液疾患の病態解析／治療制御に関する研

究 (5) 創薬・創剤の基盤に関する研究

(6) 創薬の臨床応用に関する研究

褒賞：副賞1,500万円

《問い合わせ・応募先》 〒113-0032 東京都
文京区弥生2-4-16 学会センタービル
内 日本農芸化学会事務局庶務係
Tel. 03-3811-8789, Fax. 03-3815-1920
E-mail: shomu@jsbba.or.jp

学校教育における農芸化学の普及活動補助の募集

日本農芸化学会広報委員会では、「小学校、中学校、高等学校など学校教育全般を対象とする、農芸化学に関するセミナー・講習会等開催補助の募集」を行います。

補助の対象：本学会の支部または会員個人（採択後に入会されても可）を開催世話人とし、支部単位の大きな企画から、会員個人が単独で行う企画まで、広い活動を補助の対象とします。

補助の目的：わが国では、少子化が進み、同時に若者の科学離れ・理科教育の危機が問題となっております。このような状況下において、日本農芸化学会においても「農芸化学」という社会に有用な優れた研究分野があることを、特に若い人に知ってもらいたいという考え方から、小・中・高校生ならびに学校の教員を対象

に、現役の研究者が直接最新の学問的成果をやさしく解説し、知的興奮を味わつてもらうことを目的としています。農芸化学の面白さ・楽しさ・奥の深さを知つてもらうような企画をお待ちしています。たとえば、小・中・高校生ならびに学校の教員を大学や企業の最新の研究施設に招き、バイオテクノロジーの最先端の実験に可能な範囲で参加してもらうなど大きい企画から、大学の教員や大学院生、企業の研究員などが、小・中・高校へ出かけ簡単な授業をするなどの企画も応援します。また、年次大会、支部大会や支部例会に高校生の自然科学に関する課外活動の成果を発表していただく場を提供するなどの企画も歓迎します。

補助の額：1件につき20万円まで。補助金

の用途は、主に運営費とし、特に詳しい規定は設けていません。

応募方法：開催世話人が所定の申請書に必要事項を記入・押印し、期限までに本学会事務局広報係宛に郵送で提出してください。申請書は、学会ホームページ (http://www.jsbba.or.jp/science_edu/outreach/) よりダウンロードしてご利用ください。

応募締切：2013年6月30日（日）当日消印有効。

選考：2013年7月頃。結果は、広報委員会にて審査後速やかに通知します。

報告：補助を受けた開催責任者は、活動終了後、簡単な実施内容の報告と会計報告書を広報委員長宛にご提出いただきます。

小学校・中学校・高等学校への出前授業募集

このたび、本会広報委員会では、小学校・中学校・高等学校への出前授業を開始いたします。学校関係者の皆さん、たくさんのご応募をお待ち申し上げます。

趣旨：日本農芸化学会の会員（科学者や知識人など）が、講師として小・中・高等学校へ出向き、農芸化学（動物・植物・微生物の生命現象、生物が生産する物質、食品と健康などを化学的な考え方に基づき研究する学問）にかかる授業を、最先端の研究内容の紹介などを含め

ながら、講義・実験・演習を通して有意義に学びます。

授業対象：小学生・中学生・高校生、教員の団体ほか

付帯事項：講師派遣料は本会負担（ただし必要な備品などはご準備いただきます）

授業時間：1~2コマ授業（1コマ45分）

授業形態：クラス単位（複数クラス可）

対象地区：日本全国（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国四国、九州地区）

申込方法：申請書を郵送またはメール添付

(PDF) にてお申込み下さい。申請書受付後、本会で調整し、派遣講師と授業内容をお知らせします。

申請書請求・問合せ先：日本農芸化学会事務局広報係 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル2階

Tel. 03-3811-8789

E-mail:soumu@jsbba.or.jp

その他：申込多数の場合は個別に相談のうえ、適宜実施させていただきます。

正会員（一般会員・シニア会員・教育会員）、学生会員各位へ 会費および購読料について

2013年度会費・購読料のご納入について、2013年3月、6月、11月に振替用紙をお送りいたします。また、口座引落（銀行・郵便）につきましては、2013年（平成25年）3月1日引落になっております。
《ご注意》2012年度（平成24年度）会費、購読料をご納入いただいたない会員の方には、2013年度会費との合計金額を印字した振替用紙をお送りいたします。

なお、会費が納められていない場合は入金が確認されるまで、学会誌の送本を一時停止しています。

○退会を希望される方へ

退会を希望される方は、文書（ハガキ、Fax [03-5803-9562、会員係あて]、E-mail [kaiin@jsbba.or.jp]）で会員名・会員番号(ID)・簡単な退会理由を明記のうえ、退会届を出していただいております。なお、Webからも退会申請ができます。下記のURLを参照の上、お手続き下さい。

○会員関係問合せ先：Tel. 03-5803-9561

2013年度（平成25年度）会費および購読料

会員種別	会費(年)	BBB購読料(年)
正会員	一般会員	10,000円
	シニア会員	8,000円
	教育会員	6,000円
学生会員	6,000円	5,560円
団体会員		30,000円
維持会員		1口60,000円

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
新入会・登録情報変更などの
URLについて

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
新規入会、登録情報確認・変更のURL
は下記のとおりです。

登録情報を確認、変更される場合、会員
ID（会員番号）とパスワードが必要です。

ご登録いただきました会員データに基づき
学会誌の発送、会費・購読料の請求を

行っておりますが、登録データは外部に漏
れることがないよう十分注意を払っております。

会員登録の変更につきましては、Web
上では変更できない個所も定めておりま
すので、E-mailまたはFaxでも受け付けてお
ります。

この際、登録内容をご確認いただき、
E-mailなどご登録いただいているようで
したら是非ご登録下さいますようご協力下

さい。

[日本農芸化学会ホームページURL]

<http://www.jsbba.or.jp/>

なお、パスワードを紛失された場合は
「パスワード再発行」を行って下さい。
取得されたパスワードを独自のパスワード
に変更する場合は「パスワードの変更」で
手続きすることができます。

《事務局会員係》Tel. 03-5803-9561, Fax.
03-5803-9562, E-mail : kaiin@jsbba.or.jp



日本農芸化学会中四国支部
第36回例会

期日：2013年6月8日（土）13:00～

会場：島根大学生物資源科学部

特別講演：2013年度農芸化学奨励賞、支部
奨励賞受賞講演

一般講演：講演申込み締め切り5月10日、
講演要旨締め切り5月17日

参加費：無料

懇親会：島根大学生協（一般4,000円、学生
2,000円（予定））

申込・問合せ先：島根大学生物資源科学部
(川向 誠) Tel. 0852-32-6583

E-mail:kawamuka@life.shimane-u.ac.jp

詳細は支部ホームページ (<http://jsbba.cs.jp/>) をご覧ください。

第50回化学関連支部合同
九州大会研究発表募集

共催：日本農芸化学会西日本支部ほか7化
学関連支部

期日：平成25年7月6日（土）

会場：北九州国際会議場およびAIMビル
(北九州市小倉北区浅野3-9-30)

プログラム：[第50回記念特別講演] 玉尾
皓平先生 ((独)理化学研究所基幹研究所所
長), 神谷信夫先生 (大阪市立大学複合先端
研究機構教授)

発表申込期間：平成25年3月1日（金）～4
月15日（月）

予稿原稿締切：平成25年5月20日（月）
申し込み方法、予稿原稿の執筆要領および
プログラムの詳細は今後、大会ホームページ
(<http://www.moji-retro.net/godo50/>)
で公開します。

中部支部 第167回例会

開催日：2013年7月6日（土）13:00～

会場：三重大学生物資源学部

受賞講演：竹村 浩（ミツカン）「納豆菌の
系統的育種による商品の差別化と品質向
上」

シンポジウム：『昆虫がつくるおもしろい
有機化合物—その発見と展望・夢を語る』
鎌倉昌樹（富山県大・工）「ミツバチ
の女王蜂分化誘導機構の解明」, 手林慎一
(高知大・農) 「吸汁性害虫の加害により誘
導されるイネの抵抗性」, 西田律夫（京大
院・農）「昆虫の食草選択と植物化学因子」,
懇親会

詳細は支部ホームページ (<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~jsbba/>) にて

問合せ先：苅田修一（三重大院・地域イノ
ベーション学研究科）Tel. 059-231-9619,
Fax. 059-231-9684, E-mail: karita@bio.
mie-u.ac.jp

2013年度第1回
日本農芸化学会関東支部例会
受賞講演・シンポジウム
「微生物の機能解析と
応用への展開」

日時：2013年7月6日（土）13:00～

会場：東京農業大学・1号館632番講義室
(〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1)

交通：小田急線・経堂駅徒歩15分

プログラム：【受賞講演】農芸化学奨励賞：
小川哲弘（東大院農），西本 完（(独)食総研）

【シンポジウム】佐々木康幸（東農大応生
科），加藤千明（JAMSTEC），柘植丈治（東
工大院総合理工），千田俊哉（高エネ研構造
生物）

参加費：無料（懇親会1,000円、学生500
円）

詳細は関東支部ホームページ (<http://www.jsbba-kanto.jp/>) をご覧ください。

問合せ先：東京農業大学応用生物科学部
矢嶋俊介

E-mail: yshun@nodai.ac.jp

日本農芸化学会関西支部例会
第480回講演会・
ミニシンポジウム

日時：2013年7月6日（土）13:00～

会場：大阪府立大学学術交流会館（大阪府
堺市中区学園町1-1）

プログラム：【ミニシンポジウム】『重力に
あらがう—動植物の支持組織と力学応答』
硬組織におけるメカニカルストレスの作用
(石橋 宰, 大阪府大院・生命環境), 筋肉
機能の維持・増進に有効な食品素材の開発
(大野木 宏, タカラバイオ(株)・バイオ
研究所), 植物の抗重力反応 (保尊隆享, 大
阪市大院・物理学) [農芸化学奨励賞受賞講
演] 酵母発現系を用いたハイスループット
構造生物学 (水谷公彦, 京大院・農) [一般
講演]

一般講演申込期間：5月7日（火）～6月7
日（金）

要旨締切：6月14日（金）

参加費：無料

懇親会：一般講演終了後

問合せ先：大阪府立大学大学院生命環境科
学研究科 山地亮一 (Tel. 072-254-9453)

E-mail: yamaji@biochem.osakafu-u.ac.jp

詳細は <http://www.jsbba-kansai.jp/> をご覧
ください。

平成25年度
日本農芸化学会
東北支部シンポジウム

講演題目：生理活性分子と動物の行動・生
理・発生の制御に関する先端研究

開催日時：平成25年7月13日（土）

場所：東北大學農学部第一講義室

世話人：西森克彦（東北大學大学院農学研
究科）

連絡先：Tel. 022-717-8770, E-mail: knishi
mori@m.tohoku.ac.jp

詳細は、決定次第支部ホームページ上でご
案内いたします。

メールアドレス登録のお願い

本会では、メーリングシステムとWEBによる会員名簿の整備を進めております。このシステムのいっそうの充実を図るため、会員の皆様方にはメールアドレスのご登録をお願いしたいと存じます。

本会庶務係 (shomu@jsbba.or.jp)まで、氏名、登録用メールア

ドレスをお送り下さいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

会員情報システムを通じて登録、閲覧される情報はSSL暗号化通信によって外部からの盗聴を防いでおります。

会員の拡充にぜひともご協力を!!

本会では、(一般会員：会費年額10,000円、シニア会員：会費年額8,000円、教育会員：会費年額6,000円、学生会員：会費年額6,000円)および(維持会員：会費年額1口60,000円、団体会員：会費年間30,000円)の拡充を行っております。農芸化学に関係のある大学、官公庁、民間会社などの研究者、関係業務に従事して

いる方などがお知り合いにおられましたら、ぜひ本会への入会をご勧誘下さるようお願いいたします。入会の手続きなどの詳細につきましては、下記ホームページへアクセスして下さい。

◇URL <http://www.jsbba.or.jp/>

会費・購読料の納入にご協力下さい

本会会費・購読料のご納入につきまして

は、その年度の2月末に、納入のための振替用紙をお送りいたしております。会員の皆様は、この振替用紙を用い、会費・購読料をご納入下さいようお願いいたします。

会費の未納は、学会誌などの送付・大会講演発表などに影響いたしますので、何卒速やかにご納入下さいようお願い申し上げます。

会員の皆様へお知らせとお願い個人の賛助金（任意）に関する内規の制定と適用について

(公益社団)日本農芸化学会理事会

日本農芸化学会の財政は近年赤字基調となり、2001年度は約875万円(正会員1人当たり800円)、2002年度は約1,500万円(正会員1人当たり1,470円)の赤字を出しております。

このため2003年度第47回通常総会に会費値上げを提案いたしました。健全財政にするためには、会費収入、広告収入など収入増を図る努力とともに欧米の学会でみられるような善意の寄付金の受入れも大変重要です。

そこで、個人の賛助金に関する下記の内規を、2002年10月2日の理事会と全国評議員会の議を経て制定いたし

ました。2003年度から適用されます。

会員の皆様におかれましては、学会は会員が支えるものであるという原点にたちかえり、本年度も引き続きご協力下さいようお願い申し上げます。

個人の賛助金（任意）に関する内規

第275回(2002年10月2日)理事会承認

第109回(2002年10月2日)全国評議員会承認

個人の賛助金（任意）に関し、以下のように定める。

- 対象はご協力いただける正会員(一般会員・名誉会員・有功会員・シニア会員・教育会員)とする。

- 賛助金は一口5,000円とし、一口以上を申し受ける。
- いただいた賛助金は、定款第54条(寄付金の受領)の規定に基づき処理する。

- この内規は2003年度(平成15年度)から適用する。

- お振込み先:振替口座東京00100-5-68187 社団法人日本農芸化学会

※郵便局備え付けの振替用紙をご利用いただいても結構です。

※通信欄にかならず「賛助金」とご記入下さい。